

平成29年7月

## 認知症施策推進総合戦略（新オレンジプラン）の今後に対する

## 認知症の本人からの提案

～どこで暮らしていても、尊厳と希望をもってよりよく暮らしていけるために～

日本認知症ワーキンググループ（JDWG）

## 1. 数値目標の更新の機会にこそ、理念や目的の浸透をはかり、実質が伴うように

- 認知症に関する取組みがさかんになってきていますが、何のための取組みか、理念（本人の意思の尊重、本人視点の重視）や目的が見失われないことが大事です。
- 理念抜きでは、どんなに数が増えても、わたしたちは生きやすくならず、むしろダメージを受ける頻度が増えてしまいかねません。
- 数値目標の更新の機会に、数値目標だけが独り歩きしないよう、本人の意思の尊重、本人視点の重視がすべての取組みの共通の理念であることを、国としてあらためてアピールし、浸透を図ってほしいです。

## 2. 「本人とともにつくる」を大前提に

- 「認知症の人の視点の重視」「認知症の人の意思を尊重」が新オレンジプランで掲げられています。いつの間にか、本人とかけ離れることがないように。言葉として広がるだけでなく、これが本当にどの分野でも実行されるように。
- そのためには、すべての取組みを本人抜きで進めてしまわないよう、何をする際にも「本人とともに」を活動原則としてほしいです。
- 「認知症の人は「無理」と見なさらず、認知症に関するどんなテーマや取組みでも、企画段階から私たちを加えてください。  
わかりやすく説明してもらえれば、自分たちもわかります。やりたいこと、やれることがあります。
- 本人の意見や講演を聞いておしまいではなく、話し合いを重ね、信頼関係を築きながら、本当に役立つことを一緒に作っていく試みを。
- 本人参加のやり方を、国の省庁レベルで率先してやり、そのスタイルを都道府県や市区町村にモデルとして示してほしいです。

### 3. 偏見を解消して、取組みを一人ひとりが自分ごととして

- 認知症についての正しい理解は少しずつ進んできています。
- しかし、「認知症」の知識を知っても、偏見が根強く残ったままの人も少なくありません。
- 認知症の人をひとくくりにしないでください。
- どの分野の人たちも、自分ごととして考え、真剣に取り組んでほしいです。
- 特に、教えたり、指導する立場の人自体は、人選を重視していただき、偏見をもっていない人、変えていこうとしている人であってほしいです。

### 4. 取り組んでどうなったか、実質の確認・評価を

- 今後、数の確認だけでなく、中身として本人や家族に役立つ成果が実際に生まれているか、各分野や各市町村で、当事者に聞きながら実質の確認をしてほしいです。
  - ▶ サポーター養成講座、認知症サポート医、認知症カフェ、人材育成等
- 事業ごとの確認・評価でおしまいせず、各市町村で、それぞれがどのようにつながって効果が出てきているのか、当事者がどうよりよく生きられるようになったのか、総合的に確認・評価をしてほしいです。

### 5. 働くことへの理解と支援を

- 若い人も、高齢者となっても、初期でも中等度でも、働きたいという本人の声があります。また、働くことが可能な人が増えています。
- 認知症の人が働くことへの理解と支援・環境整備を、お願いしたいです。

### 6. 高齢者と認知症の人を分けて検討と取組みを

- どちらもとても重要であり、重複している場合もあります。
- しかし、高齢者と認知症の人を明確に区別しないまま、ごっちゃに扱われがちであり、効果的な取組みにつながっていないように思えます。
- 認知症に関する課題は何か、を各分野・各職域でも明確にして、より具体的な取組みを進めてほしいです。
- なお、認知症高齢者という用語を使うと、一人ひとりへの理解や支援に至りにくいです。特に、若い認知症の人への理解、支援が広がりにくいと考えます。
- 認知症高齢者という用語をできるだけ使わずに、「認知症の本人」「認知症と共に生きる人」といった表現を使うよう配慮してほしいです。

<ご参考>

●日本認知症ワーキンググループについて

認知症の本人をメンバーとし、認知症の人と社会のために認知症の人自身が活動していく日本初の独立した組織として、平成26年10月14日に発足しました。海外で先駆的な活動を進めている各国の「認知症ワーキンググループ」と連携し、国内の認知症関連の諸団体と友好的な関係を築きながら、認知症とともによりよく暮らしていける地域社会を築いていくための提案や活動を行っています。

問い合わせ先：日本認知症ワーキンググループ事務局

メール：contact@jdwg.org

ホームページ：http://www.jdwg.org